

<平成28年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

横浜国立大学教育人間科学部附属
横浜中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



実 施 内 容

- 期 日 : 平成28年6月9日 (木)
- ク ラ ス : 2年A組 (45名)
- オリンピック : 藤丸 真世 先生 (水泳・シンクロナイズドスイミング)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備運動



- ・自己紹介後、今日の授業では、オリンピックに出場した人が特別なではなく、オリンピックの価値が皆の身近にあることを知ってもらいたいと伝え授業開始。
- ・シンクロナイズドスイミングについて知っているかを問いかける。床に仰向けになり、藤丸先生の掛け声に合わせて足を床と垂直になるように上げ、シンクロでは水中でチームメイトと合わせながら手足を動かしていると説明した後、準備運動を実施。

3. 主運動



- ・3グループに分かれて8の字跳びを実施。ルールとして数を正確に数えること、引っ掛かったらゼロから数え直すこと、90秒間で最も多く連続して跳ぶことができた回数を発表することを説明。各回終了後、回数を発表し作戦タイムを設ける。

4. まとめ



- ・みんなで作戦を考えて工夫したことや、ルールを守ったことが大事であると伝え、次の座学の時間では運動の時間の活動とオリンピックバリューの関わりについて考えようと伝えて、運動の時間を終了。



実施内容

■授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. オリンピックの価値を伝える



2. 自己紹介とシンクロナイズドスイミングの紹介



- ・「オリンピック」のイメージを問いかけ、近代オリンピックは、クーベルタンがスポーツが教育の一環として重要な役割を担っており、若者が健康な肉体と健全な精神を持つことが社会の発展を促すと考え、それが世界平和にもつながると信じて復興されたことを紹介。
- ・オリンピックに出場するまでの経験談を通して、藤丸先生にとつてのオリンピックバリューについて説明。

3. 個人ワークとグループワーク



- ・自分が今努力していることは、どのオリンピックバリューに当てはまるかを個人で考えた後、運動の時間の8の字跳びでがんばったこと、話し合って工夫したことはどのオリンピックバリューに当てはまるかを考える。
- ・各班の代表者が話し合った内容を発表。エクセレンス：失敗しても諦めずにがんばった、作戦を立ててベストな方法を考えた。フレンドシップ：互いに声をかける、協力し合う、お互いにアドバイスする、仲間を信用する。リスペクト：ルールを守る、意見を尊重する、成功したとき仲間に感謝する、等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックで重要なことは、勝つことなく参加することだという言葉を紹介し、夢に向かってどれだけがんばれるかが一番大切なことだと伝える。
- ・2020年には、東京でオリンピックが開催されるので、様々な形で大会に関わってほしいと伝え、授業終了。



実施内容

- 期 日 : 平成28年6月9日 (木)
- ク ラ ス : 2年B組 (45名)、2年C組 (44名)
- オリンピアン : 大林 素子 先生 (バレーボール)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限・5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、ホワイトボードに掲示したオリンピックバリューについて触れ、今日の授業ではオリンピックには日常生活に活かせるテーマが多く含まれていることを知ってほしいと話した後、バレーボールを用いた準備運動を実施。

2. 準備運動



3. 主運動



・6班に分かれて円陣パスを実施。軽くならホールディング（少し持ってからトス）をしてもよい、ワンバウンドしてもよい等のルールを加えながら、制限時間内で1番長く続いた回数を各班から発表。記録を上回るために班ごとに作戦タイムを設ける。

4. まとめ



・運動の時間を振り返り、考えた作戦を実行し、回数を増やすことができたこと、オリンピックバリューを実践できていたことを伝える。
 ・座学の時間ではバリューについて詳しく説明すると予告し、運動の時間を終了。



実施内容

■授業のながれ：座学の時間（4時限・6時限）

1. オリンピックの価値を伝える



- ・今日のオリンピック教室では、これからの人生で何かをがんばるきっかけになるように、大林先生の経験を伝えると授業の目的を確認し、現役時代の写真を用いて自己紹介。
- ・オリンピックに出場するまでの経験を紹介し、夢を諦めないことが大林先生にとってのテーマだと話す。

2. 自己紹介



3. グループワーク



- ・2020年東京オリンピックが開催される年、自分がどうなっていたいか。また、それを叶えるためにはどうしたらよいかを班毎に話し合う。
- ・オリンピックに出場するために部活の練習をがんばる、オリンピックに参加するためにオリンピックについて知る、英語を勉強する、来日する外国人に日本語や文化を知ってもらうために勉強する、受験に合格するために1問でも多く問題を解く、充実した人生にするために新しいことに挑戦する等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・家に帰ったら今日の授業を振り返って、自分の夢は何か、夢を叶えるために何ができるかを改めて考え、夢は叶うと信じて今日からがんばってほしいと伝えて、授業を終了。

■ 集 合 写 真

2年A組



2年B組





2年C組



■ 記念品贈呈



■ 証明書贈呈

